

学校教育計画（令和6年度～令和9年度）

学校名	秦野支援学校	課程・学科 教育部門・学部	病弱教育部門・小中高 知的障害教育部門・小中高 肢体不自由教育部門・小中高
-----	--------	------------------	---

（1） 学校のミッション

共生社会の実現に向け、地域とともに、児童・生徒の自立と社会参加を目指して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行う。

三つの教育部門を有する特別支援学校として、一貫した教育を行うとともに、一人ひとりの障がいの状態等に応じた就労支援の取組を充実させる。

また、医療の管理下におかれている児童・生徒をはじめ、医療的ケアを必要とするなど多様な教育的ニーズのある児童・生徒の教育活動全般について、安全・安心な教育環境の整備に取り組み、個々の障がい及び健康等の状況に合わせた専門性の高い指導を実践する。

そして、三つの教育部門、四つの教育の場を有する特別支援学校として専門性を高め、各学校や関係機関との相互のネットワークの中心として、地域とともに、障がいのある児童・生徒の支援体制整備と地域社会生活への参画の支援に取り組む。

（2） 学校教育目標

【めざす学校像】

- 多様な教育部門を持つ「ともに歩む総合的な特別支援学校」
 - ・児童生徒が「毎日行きたい」と感じる学校
 - ・保護者が子どもを「毎日登校させたい」と感じる学校
 - ・地域や関係機関が「利用したい、応援したい、手をつなぎたい」と感じる学校
 - ・教職員が学び合い、支え合い、働きがいを感じられる学校

【めざす子ども像】

- めあてを持って、やりぬく子ども
- 「よさ・強み・持ち味」を十分に発揮できる子ども
- 自分を大切にし、他の人の幸せを願える子ども

（3） 計画策定時点での課題

- 地域の特色や学校の強みを活かした教育課程を編成し、教育活動を通して地域に貢献することや、教職員の専門性維持向上のため、授業改善及び、研究・研修を充実させること。
- 多様な背景や教育的ニーズがある児童生徒に対し、校内多職種や保護者・関係機関等と連携・協働して、適切な指導・支援を進めていくこと。
- 児童生徒の将来の夢や願いの実現や主体的な進路選択に向けて、保護者や地域、関係機関等との連携を一層充実化すること。
- 地域センター機能を拡充し、地域での学びを支えるとともに、関係機関等と連携・協働しながら、教職員全員で支援教育やインクルーシブ教育を推進すること。
- 緊急時・災害発生時の対応にかかる各種マニュアルや体制の検証・改善により、安全・安心な学校づくりを一層進める。
- 三つの教育部門と四つの教育の場を有する本校の教職員の想いが一つになり、学び合い、支え合いながら、学校を取り巻く状況や時代の要請に対して、迅速かつ適切に対応していくこと。

(4) 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、個別教育計画を中心に据えた各部門課程における個々の児童生徒の教育活動の充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別教育計画の作成の観点を明確にして共有し、計画に基づいた効果的な指導の推進および検証と改善を行う。 専門性とチーム力を活かして児童生徒個々のニーズに適した支援方法や教材を模索し、学校全体の指導力を高める。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、すこやかにしなやかにたくましく生きる力の育成を組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントを組織的に有効に活用できるための仕組みと体制作りを整える。 教員個々の専門性の向上を図ると共に、各教員のスキルを活かしたチームとしての指導の実現に向けての研修および情報共有と検討を行う。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の可能性をきりひらく子を育てる」の視点から、小中高と一貫した進路指導・支援の充実と個別最適な進路学習を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部門、学部とのニーズを共有して、縦横の組織的な連携を強化する。また保護者と丁寧に情報共有・共通理解を図る機会を計画的に設定する。 児童生徒が地域の中で活動できる場所や機会を開拓して、地域での社会生活の充実を推進する。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 「児童生徒を地域のフロントへ」の視点から、従前のセンター的機能を礎として、地域の学校、教育行政、地域資源等の連携・協働により、児童生徒が地域の中で暮らす力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により中断・縮小していた交流及び共同学習や地域資源を活かした活動について、交流校および地域に積極的な検討を働きかけ、新たな活動の展開と充実を図る。 居住地交流校等の地域小中学校へ適切な情報発信を行い、地域での学びの拡大についての理解推進を図る。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な教育環境の整備をさらに推進するとともに、緊急時、災害時の対策を整備する。 教育活動の充実化のために、より働きやすい職場環境の整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的、また状況に応じた様々な視点で研修や点検業務を行い、安全に対する職員の意識を高め知識を更新する。 様々な状況での防災対応場面の洗い出しと必要に応じてマニュアル化を行う。 業務改善の視点で様々な方策等について情報収集を行い、柔軟な発想を持って出来ることから随時改善策を講ずる。